

軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

柔らかそうなタオルを持ったおやじが口の中に手を入れてきた。  
揚げ物の匂いがしたから、その指を思い切り噛んだ。

ちよūd、それは、フライドチキンの骨の部分を噛んだ感触に似ていた。  
軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

柔らかそうなタオルを持ったおやじが新品の靴をくれた。

履いてみると思ったよりも大きく、靴擦れを起こしてしまった。

ちよūd、それは、指に出来たささくれの存在を超えていた。

軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

柔らかそうなタオルを持ったおやじが卵を買ってきた。

割ってみると白身に血が付着し、黄身が潰れていた。

ちよūd、それは、ごはんの上に掛けるはずだった。

軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

柔らかそうなタオルを持ったおやじが踊っていた。

軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

柔らかそうなタオルを持ったおやじが親父ではなかった。

軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

柔らかそうなタオルを持ったおやじが軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

午前3時5時あたりは軟骨がグリツとなる感じとそっくりだった。

このお話を考えているわたし自身が軟骨がグリツとなる感じとそっくりみたいだ。